

アフリカ

テナ・イステリン



エチオピア 理数科教師 永喜多 千春

北部のメラウイという小さな町の高校で理科を教えています。先生と生徒との触れ合いが少ないので、日本の学校の良いところを紹介することが出来ればと思っています。先日、授業中うるさいクラスで怒鳴って教室を出て行ったところ、担任を通して謝りにきました。日本風でしょ。校長先生を怒鳴りつけたり、教頭先生に説教したり、日本ではちょっとあり得なかつたことをしています。英語だと不思議と強気になるのでしょうか。新しい自分の発見です。

エチオピア料理はバラエティーが少なく、うっかりすると毎日三食同じになってしまいます。先日の健康診断では、体重が10キロ近く減っていました。アフリカの角(Horn of Africa)と呼ばれる東アフリカのこの国には敬虔なキリスト教徒が多く、自分たちをアフリカ人とは思っていません。歴史あるこの国に誇りをもって暮らしています。

この国には多くの民族が住んでいて、それぞれ独自の言語があります。共通言語としてアムハラ語が使われていますが、生徒たちはみんな上手に英語を話します。中学校から授業がすべて英語で行われているからです。教科書も先生の説明もすべて英語で、外国人を見たこともない子供たちが流暢な英語を話すわけです。北海道に育つみなさん、どうか世界は広いことを忘れないで下さい。そして、自分の好きなことには徹底的に夢中になって下さい。このふたつが、私がアフリカに来て気がついたことです。皆さんは素晴らしい土地に育っているのですから。特に浦河高校のみなさんへ。そして我が娘、奏へ。

Muli shaani?

ザンビア 音楽 杉野 成二郎

中高等学校の音楽教員として活動しています。午前中は音楽の授業、午後は吹奏楽部の指導という日々を過ごしています。吹奏楽部は長年指導者が不在だったため大変なこともあります。こちらの生徒は音楽が大好きなので、その点では助かっています。現在は楽器の数が少なく、日本で使用していない楽器があつたら送って頂けたらなあと考えてしまいます。

ザンビアは高原地帯に属する国です。北海道に比べると暑いですが、湿度がなくカラッとしています。70を超える民族があり様々な現地語がありますが、共通語として英語が使用されています。活動先であるマロレは、州都カサマから東に50km行った所にあり、首都までは約900km。乗り換えのために前泊し、かつ10時間以上バスに揺られてようやく到着します。そんな田舎ですが、人々は素朴でとても優しく大変過ごしやすい所です。

アフリカというと飢餓や貧困のイメージが強いですが、実際はそこら中に飢餓が広がっている訳ではありません。ただ、モノを買うような生活には行き届かないのも現実です。生徒はペン・ノートは持っていても、鉛筆・消しゴム・定規は貸し借りします。また、近所で走り回る子の殆どが靴を履いていません。それでも彼らが不幸せだとは思えません。殆どがキリスト教徒で、中高生が自殺するということは考えられません。AIDS孤児(AIDSのため両親が他界した子供)が大変多いですが、皆至って明るく過ごしています。一見、何でもすぐに買える日本の方が良さそうでも、視点を変えると分からぬものですね。ザンビアの子供たちは日本に大変親しみを感じており、興味を持っています。北海道の皆さんも、少しでもアフリカについて興味を持つてくれたら幸いです。それではみなさんShaaleenipol!(さようなら)



KARIBU TANZANIA

タンザニア 理数科教師 鈴木 祐二

北部沿岸インド洋に面した港町、タンガという街のTanga Technical Secondary School (Aレベル:高校から大学1年生)で生物を教えています。授業はすべて英語で行います。生徒たちは、休む時間を惜しんで毎日勉強に多くの時間を費やしています。休日も木陰で勉強している姿をよく見かけます。授業以外の活動では、日本の文化を紹介したり、近所の人々との交流を深めています。生徒たちは、とても日本に興味、関心があり、将来は日本へ行って勉強したいという生徒も少なくありません。

この国は電力事情がすごく悪く、停電は当たり前、蛇口から水が出る地域は極わずか。こんなタンザニアで生活するには、何事にもpolepole(のんびり)であることが必要です。主食は「ウガリ」というトウモロコシの粉を練った食べ物で、おかずの「ニヤマ(肉)」「クク(鶏)」のスープや「マハラゲ(煮豆)」「ダガー(煮魚)」によく合います。日本の中古車がたくさん走っていて、街のバスは、日本のワゴン車を改造した「ダラダラ」という乗り物です。20円程度で乗ることができます。車体に日本人の名前が入った自転車もよく見かけます。

皆さん、タンザニアと聞いてどんなイメージが湧きますか?「暑い」「砂漠」「貧しい」などでしょうか。でもタンザニアは「暑くない」のです。確かに沿岸地域だけは大変暑くじとじしていますが、それ以外の場所は標高が高くさほど暑くはありません。キリマンジャロ山頂には雪が降り、氷河も残っています。でも温暖化の影響で、氷河がなくなってしまいます。君ならどうする?

「砂漠はない」のです。ステップという広大な大地が広がり、たくさんの動物たちが生息しています。動物を手厚く保護しているので、ライオン、キリン、サイなどが自然のまま生息しています。でも、密猟でたくさんの動物が殺されていて、何とかしないと動物たちが絶滅してしまいます。君ならどうする?

「貧しくない」のです。天然資源に乏しく、工業も発展せず、確かにアフリカの中でも最貧困に分類される国です。でも、栄養失調でおなかこりした子供は減多に見かけません(難民キャンプは別です)。先進国の基準では、一日1ドル以下の生活を貧困層としていますが、この国では一日1ドルでおなかがいっぱいになります。だからといって「貧しい」「かわいそうだ」と思うのは、その人のおごりです。でもこのままでは、先進国の思うままに利用されてしまいます。君ならどうする?どうですか?この国のこと少し理解できたかな。面白そうだと思ったら自分でもっと調べてみよう。もっとたくさん発見があるよ。タンザニアって面白い国だなってことが。

